

取組名称	「地域の記憶を未来へつなぐ」－香川県豊島の環境再生活動と環境教育の挑戦			団体設立後の経過年数	40年
応募取組主体名称	NGP日本自動車リサイクル事業協同組合	活動地域	全国	応募取組の活動年数	6年
取組主体の種別	企業 / 学校 / NPO・任意団体 / 自治体 / 地域コミュニティ / 個人 / ユース部門（概ね30代以下の次世代を担う若手を中心となって実施する取組はこちらにもチェックしてください） / その他				
応募取組に関連する 実行委員会特別賞	サステナブルデザイン賞 / 子どもエンパワーメント賞 / 環境と福祉賞 / 環境地域ブランディング賞 / 環境ひとづくり賞 / 環境社会イノベーション賞 / 地球と人への想いやり賞 / SDGsビジネス賞 / EXPO2025 いのち動的平衡賞				



取組の要旨

日本最大級の産業廃棄物不法投棄「豊島事件」の多くは自動車由来でした。私たちNGPIは、自動車リサイクル事業者としてこの問題に向き合い、岡山大学・瀬戸内オリーブ基金とともに、自然の回復と次世代への学びを柱に活動を開始。地域住民と力を合わせ、森の再生や環境教育に継続的に取り組んでいます。この活動を通じて、過去の公害を“未来の資産”に変える取り組みとして、全国の地域再生の手本となることを目指しています。

実績の要旨

- ・不法投棄により壊された土地のうち3,980㎡植生回復活動を開始
- ・2016年から2025年9月までに「641名」が活動に参加（NGPIは2019年から18回の活動を実施し、延べ「242名」が参加）
- ・2016年から2025年9月までに「921名」に対して見学会等、環境教育を実施。

取組評価の ポイント	環境への貢献	かつて大量の産廃が不法投棄された豊島にて、企業・大学・NPOが協力し、自然植生の回復や水質改善など、科学的根拠に基づいた環境再生活動を実施。それぞれが当事者意識をもって地域の環境修復に取り組んでいる。
	社会・経済への貢献	公害の教訓を学びに変え、子どもや企業関係者への環境教育を展開。NGPIは廃車王の取引1件ごとに寄付金を生む仕組みを導入し、本業と社会貢献を両立させるモデルを確立。持続可能な循環モデルが構築されている。
	地域資源の活用	「かつての公害の被害地」というネガティブな資源を、教育と再生の場として積極的に活用。地域住民、大学、NPOそれぞれの役割や資源を活かし、共同で取り組むことで地域の価値再構築につなげている。
	普及・汎用性	このモデルは、他の公害被害地や環境課題を抱える地域にも応用可能。企業・大学・住民が役割分担しながら取り組むスキームは、各地に広げやすい。
	革新・ユニーク性	自動車リサイクル事業者が豊島事件に環境責任を持って、再生に取り組む例は自動車業界にはなく、強い社会的意義がある。本業と連動した寄付制度や仕組み化も、独自の試みであり、先駆的なモデルといえる。
	継続性	活動は6年以上にわたり継続されており、企業・大学・NPOが連携する体制も構築済み。寄付制度が本業と結びついており、自立的かつ持続可能な仕組みとなっているため、今後も安定的な展開が可能である。

展望の要旨

豊島での植生回復を一過性の支援で終わらず、次世代の環境教育や地域再生と結びつけ、継続的な価値を生む活動として発展させていきます。かつての自然を学べる見本園や、不法投棄現場を見渡せる展望台の展示を整備し、訪れた人が環境問題を「自分ごと」として捉えるきっかけを提供します。